

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

思永 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていた。 ・言語知識理解に関する問題に課題がある。明確な言葉で答えを書くことにおいては日頃から取り組む必要がある。 ・文脈に即して正しい漢字を書くことにおいて課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する問題は、全国平均正答率を下回っている。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識して分かりやすい語句を選択する問題は、無解答率が高かった。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っていた。特に、記述式の問題では、全国平均を下回っている問題数が多い。 ・文章を読んで要旨を捉える問題に、課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料を作成し、活用して話す問題の正答率は、全国平均正答率を上回っていた。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題においては正答率は高いが、無解答率が高かった。 	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っている。 ・全体的に正答率が低い。特に、図形の証明問題、比例のグラフから変域を求める問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・時間と道のりの関係を表すグラフを見て道のりを読み取ることができる問題では、正答率は高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・比例のグラフからxの変域に対するyの変域を求める問題では無解答率が高かった。 	

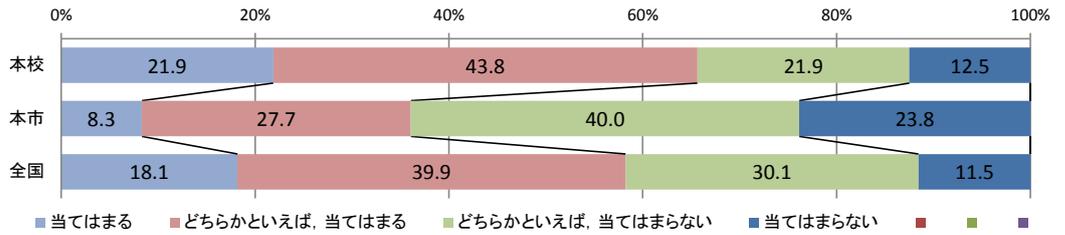
数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っている ・資料を活用して答えを導き出す問題や図形の証明の問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式の問題において、実生活の場面に結び付けて理解する問題は無解答率も低く、正答率は高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の証明の問題は無解答率が高かった。 	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っている。 ・科学的な思考・表現を問われる問題と地学的領域の問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・化学式の問題は全国平均正答率を上回っている。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考・表現を問われる問題と天気図から風力を読み取る問題は無解答率が高く、正答率も低かった。 	

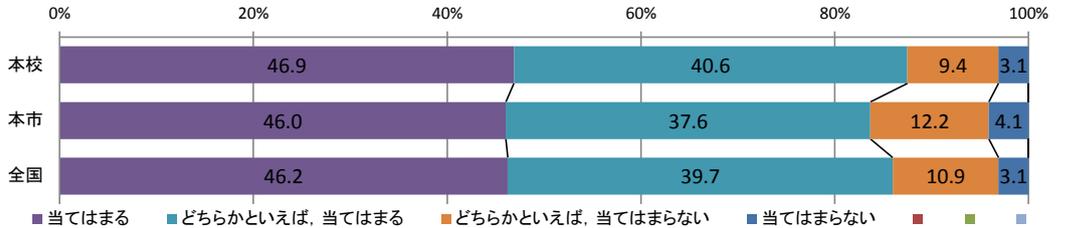
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

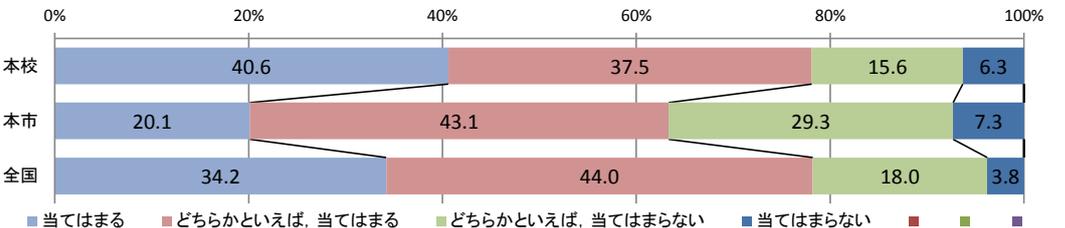
37
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



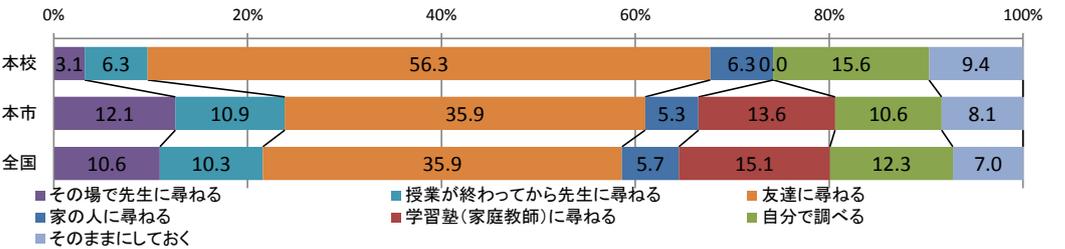
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



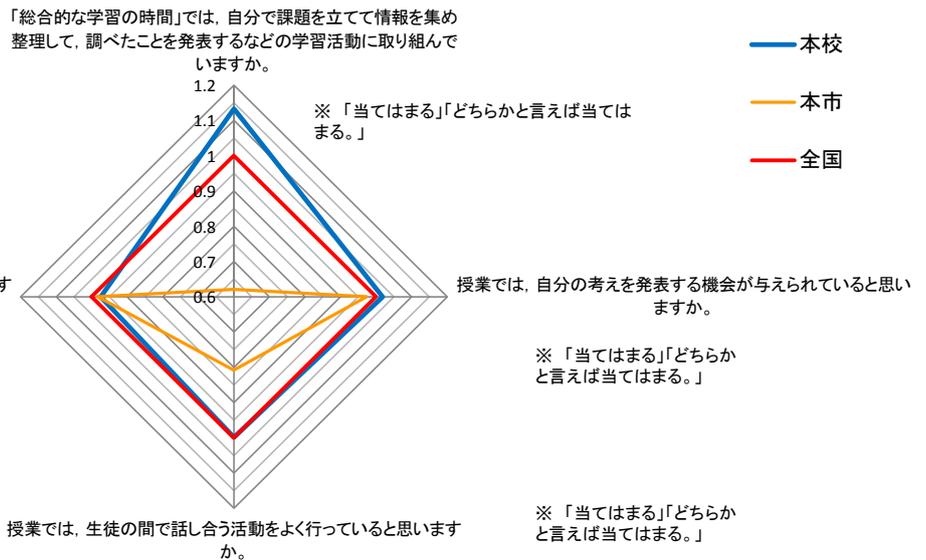
39
授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



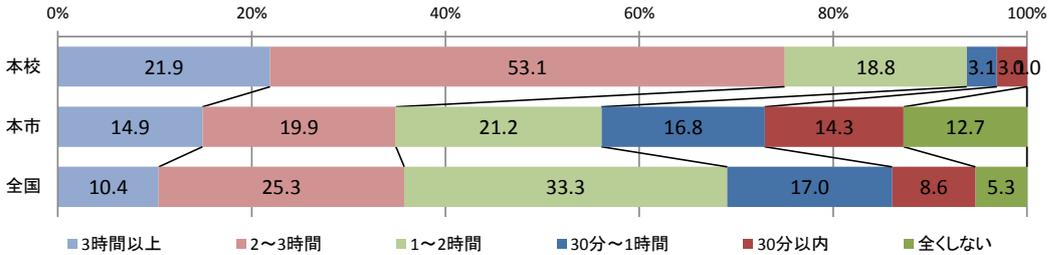
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・自分の考えを発表する機会が与えられていると答えている生徒の割合は約8割と多い。
 ・分からないことは先生に尋ねるという生徒の割合は少ない。授業で話し合い活動が授業に取り入れられていると感じている生徒は全国平均と同じくらいの割合なので、その中で、友達に尋ねる生徒が多いと思われる。しかし、わからないところは「そのままにしておく」という生徒が約1割いる。そこが無解答率の高さにつながっていると考えられるので、その生徒に対する指導の工夫が必要である。

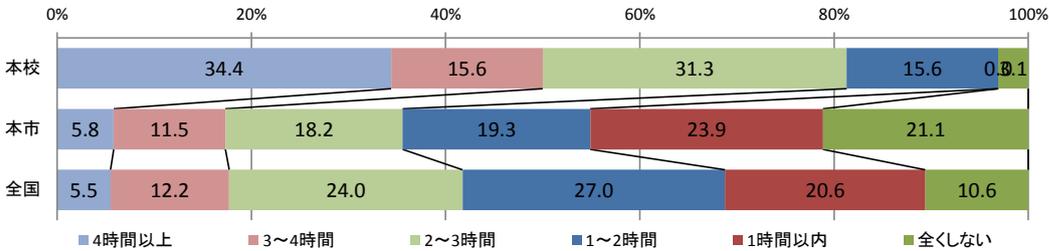
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

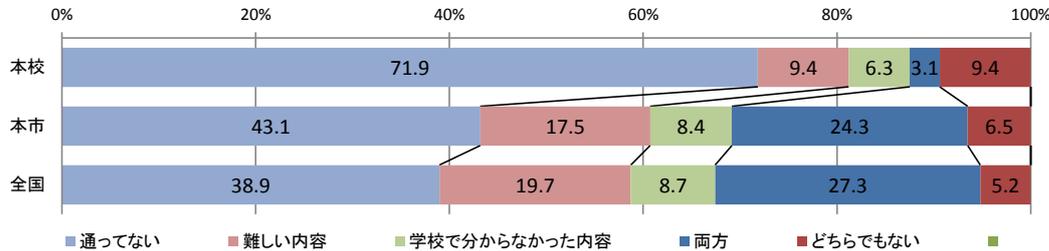
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



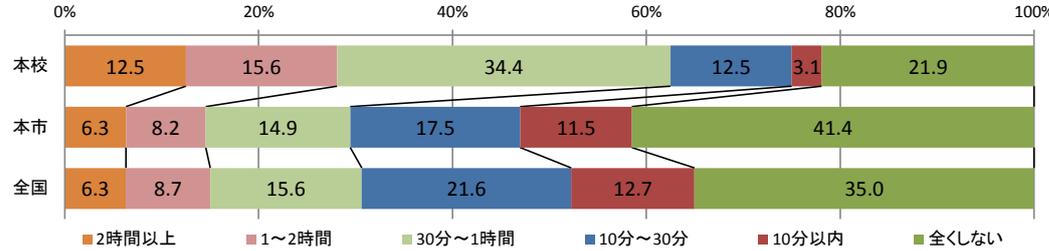
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



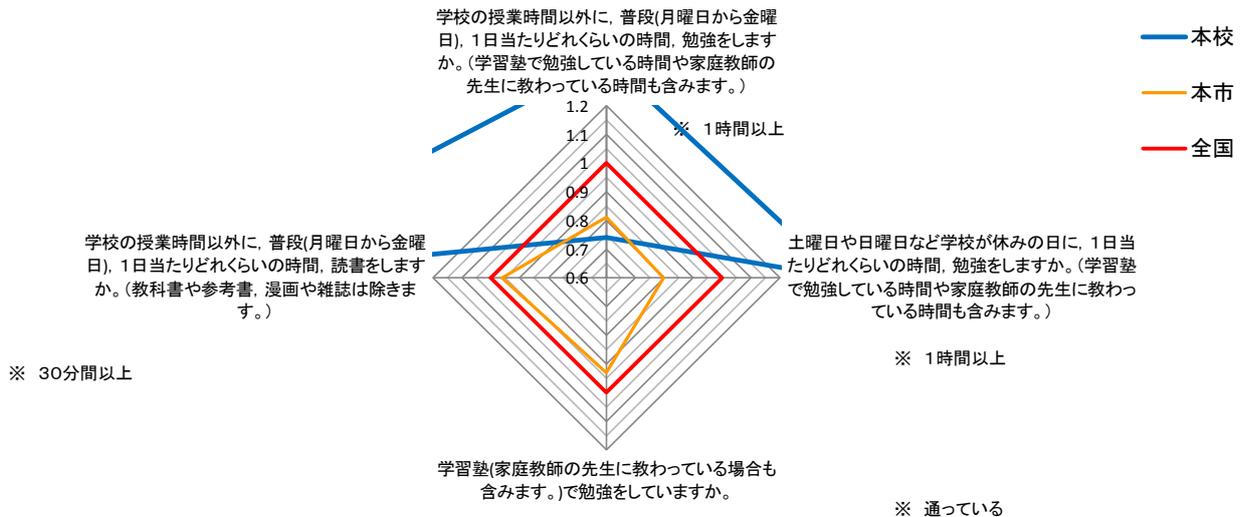
15
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含まれます。)で勉強をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)をしますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



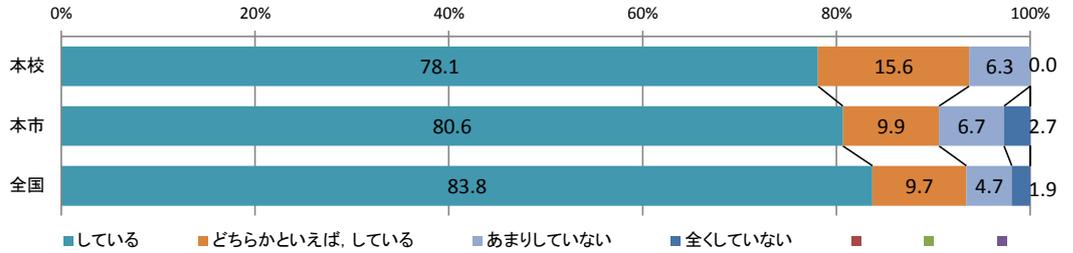
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・学校以外で1時間以上学習している生徒は全国平均を大きく上回っている。塾等に通っている生徒の割合は低いので、家庭学習の取り組み方の指導が必要である。

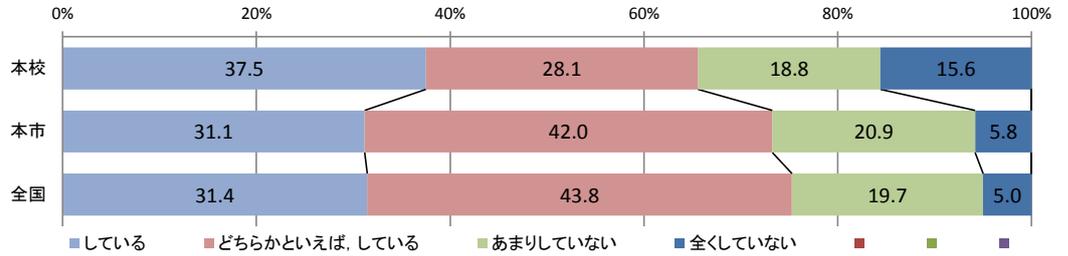
・読書に30分以上の時間を費やしている生徒は6割以上いる。2時間以上の生徒は12.5%で、全国平均を大きく上回っている。

④ 生活習慣等に関する調査結果

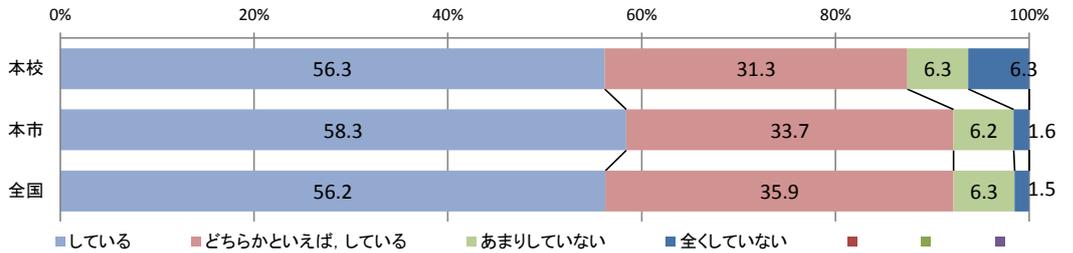
1
朝食を毎日食べていますか。



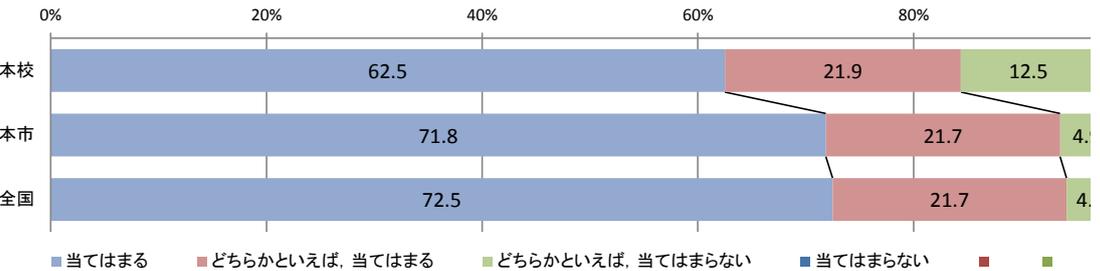
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



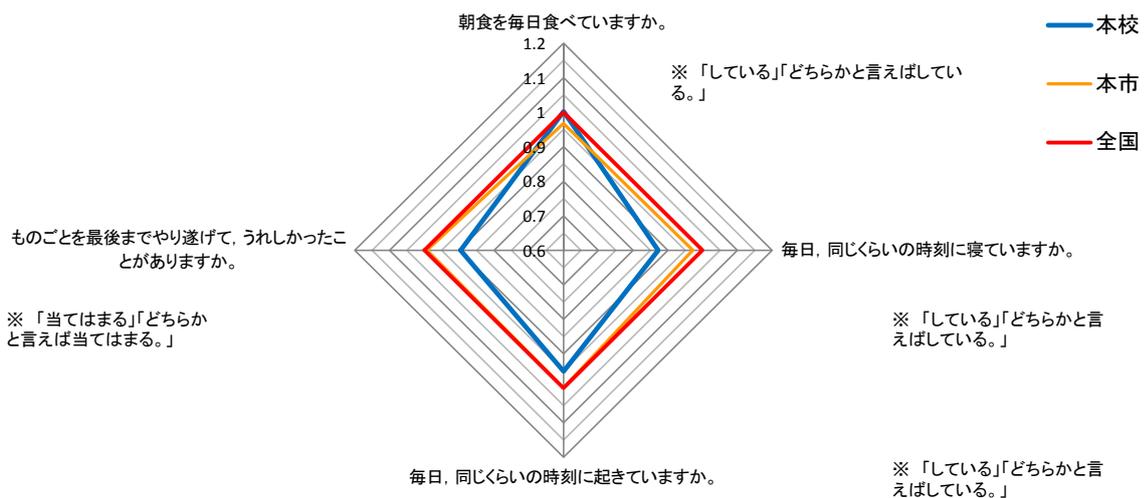
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」という問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒は約6割で全国平均よりやや低い。

・毎日同じくらいの時間に寝ている生徒は、全国平均よりやや低い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○授業での取組

・わからないことをそのままにせず、先生に尋ねることで、理解し、できた、わかったという達成感を味わわせることが、無解答率を下げるにつながると考えられる。そのため、各教科で、豆テストの実施等、繰り返し問題に取り組ませることが必要である。

○学年での取組

・現在朝自習(毎日実施、5教科)や学期に数回、朝自習テストや漢字テストを実施。(各学年)

・ひまわり学習塾への積極的な参加を促す。(3年)

○全体での取組

・週に2回放課後大学生を講師として、数学、英語の放課後教室を実施している。基礎学力の定着を図る。

・生徒会活動としての学習に関するコンクールを実施し、表彰等により、一人一人の意欲をさらに高める。

・若年教師を中心に授業研究や指導主事要請を積極的に行い、教科指導の力を育てる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の取組

・家庭学習に1時間以上取り組んでいる生徒は全国平均を上回っている。また、土日に3時間以上学習に取り組んでいる生徒は約50%である。そのため、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。各教科、学級担任により、「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して家庭学習の取組についてのアドバイスをするようにする。

○生活習慣

・就寝時間について毎日ほぼ同じ時間に寝ていないと答えた生徒が約15%で、全国平均を上回っているので、規則正しい生活習慣を身に付けることの大切さを学級担任だけでなく、全職員でさまざまな機会をとらえて指導を繰り返していく。

・「携帯・スマホ夜10時電源オフ」をPTA、地域と協力して推進する。